KIFA Report

河内長野市国際交流協会

100

Jan.2017

創刊100号記念版

河内長野市長・KIFA会長

新春対談

● 姉妹都市カーメル市長
新年のごあいさつ

● インドネシアな１日
● KIFA各事業部 25 周年記念メッセージ
● 今年も来ます！ヤングアメリカンズ！
● 日本語ボランティア・ブラッシュアップ講座

〒586-0025　大阪府河内長野市昭栄町 7-1　キックス 3F　http://www.kifa-web.jp　Tel 0721-54-0002　office@kifa-web.jp

新春対談：まちづくりとこれからの国際交流

島田　智明　河内長野市長
山本　明彦　河内長野市国際交流協会会長

河内長野市国際交流協会の設立25周年を記念して、島田市長と山本会長の対談をお届けします。

島田：新年おめでとうございます。市長の島田です。昨今のグローバル化の波に伴い、河内長野市に在住される外国人、観光で訪れる外国の方も増えてきています。そこで河内長野の将来を担う子どもたちには、国際的な視野を持った人間に成長し、外国人と積極的に意思疎通を図っていただきたいと考えています。今後、河内長野の国際化を推進していきますので、国際交流協会のご支援ご協力を、よろしくお願いします。

山本：あけましておめでとうございます。そうですね、河内長野には、いろいろな国の方が住まれていますし、私達が行っているイベントでも様々な国の方々が河内長野を訪れてくださいます。島田市長のおっしゃる河内長野の国際化に、私達国際交流協会が少しでもお役に立てばいいと思っております。

市長は海外滞在のご経験もあるとお聞きしています。そのあたりからお話を伺いたいと思います。

島田：はい、私は日本の大学で修士号を取得し、民間企業に就職したあと、3 年ほどシンガポール国立大学で勉強させていただく機会がありました。その際、授業の形態、学生の姿勢の違いを感じました。日本では講義が中心ですが、シンガポールでは討論中心の授業です。何か発言しないといけないので、しっかり予習をしておかないと授業に入っていけない。日本の基本的には受け身の講義形式とは異なると感じました。

山本：海外で生活されてどのような事を感じられましたか？

島田：日本と海外の文化の違いということで一番感じたのは、海外ではコミュニケーションを楽しむということですね。街なかで会っても Hello! と声を掛け合いますし、How are you? から自然に会話が始まります。日本には根付いていない素晴らしい習慣ですので、是非とも見習いたいと思います。

山本：海外での生活を経験され、市長になられました。その経験をどのような形で活かしたいと考えておられますか？

島田：今は全世界でグローバル化の波が押し寄せてきて、多文化共生の方向に進んでいます。全国的にもそうですが、今一番問題になっているのが少子高齢化です。これを解消する手段として、外国人に来ていただいて地域の活性化につなげるのもひとつの方法かなと思っています。日本は、諸外国に比べて安全というのが売りです。日本人、外国人を問わず、この安全が家族揃っての旅行を促すセールスポイントになりますので、多文化が共存する安全で快適な都市を目指す必要があると思います。具体的には六甲アイランドの様な街づくりがいいお手本かなと思っています。幸いなことに、河内長野は空港からそれほど遠くないですし、大阪市内まで電車で30分という地の利があります。また、世界遺産の高野山にも近く、文化遺産も沢山あります。さらに外国人が好みそうな自然も沢山残っていて、魅力的な街だと思います。日本は島国ということもあり、少し閉鎖的な風潮がありますが、グローバル化の流れに乗って徐々に変わりつつあると感じますし、変わらないといけないと思いますので、河内長野において、そのモデル作りをしていきたいと思っています。

山本：そうですね、日本だから日本人だけが住むという考えは通用しなくなってきていますね。教育についてはどうでしょうか？

島田：国としても世界に通じる人材の育成が必要だということで、国際バカロレアの資格（世界共通の大学入学資格）が取れる教育機関としての、インターナショナルスクールの設立を奨励しています。河内長野において、そのような教育機関を誘致する必要性を感じています。他市においては、少子化に伴う、小中学校の統廃合という問題が出てきています。有効活用に向けて、そのような教育機関を誘致することにより、地域の活性化と世界のグローバル化をつなげることができるのではと考えています。普通の日本の学校とインターナショナルスクールが交流すれば、お互いにいい刺激になり、相乗効果が生まれると思います。今、企業が求めているのは国際人として通用する人です。異なる言語を話せるだけでなく、異なる習慣に違和感を感じないような人材です。河内長野の子どもたちには、世界で活躍する人間に育ってほしいですし、そのような環境を作るのが私たち行政の仕事だと思っています。

山本：お互いに違和感なく異なる文化を受け入れることのできる人間ということですね。

島田：まさにそうですね。ちょっと話は変わりますが、以前、海外において日本人学校の道徳の授業を見学させていただいたことがあります。内容は日本の授業と全然違いました。外国では、まわりに目や肌の色の違う人がたくさんいるわけですし、宗教や文化も異なります。そのような環境の中でお互いを尊重し、調和を保ちましょうというような授業内容だったと思います。国際感覚を養うような授業が、これからの子どもたちにとって重要だと思います。

山本：市長に着任され、今まで私たちの活動をご覧になって、是非こうして欲しいとか、私たちに期待されるところがありましたらお聞かせください。

島田：国際交流協会が様々な国際交流イベントを企画し、国際化にご尽力いただいていることに非常に感謝しています。今後もいろいろな面で国際交流活動の範囲を広げていただければと思います。可能であれば、国際交流を事業化に結び付けていくのも手だと思います。国際交流の一環で外国の方々には、各国の料理を作ったり、様々な伝統芸能・技能を披露したりしていただいていますが、その活動を国際交流協会がバックアップして事業化する。もちろん市もそれを支援するというようなことができれば素敵ですね。

姉妹都市　カーメルから

Happy New Year!

インディアナ州　カーメル市
ジェームズ・ブレナード市長

姉妹都市河内長野の皆さま、新年おめでとうございます。2017年も実りある友情の交流を続けていくことを願っております。22年間の姉妹都市交流の中で、このつながりの大きな成果を見てまいりました。我々の共同事業は、それぞれの文化の相違点と相似点の理解に役立ってまいりましたが、それこそが平和裡に国々をつなげていくのに重要な点であると思います。

国際交流協会の設立 25周年おめでとうございます。また、KIFAリポート創刊100号おめでとうございます。貴協会が、たゆみなく、多くの国々と友情をはぐくみ、世界的な相互理解に向けて貢献されていることを心より称賛いたしております。

機会がございましたら、河内長野市民の皆さまにカーメルへお越しいただければと願っております。そして、当市での生活や人々について、是非知っていただきたいと思っております。

皆さまの幸福とご健康をお祈りいたします。

山本：御多忙中に時間をとっていただき、ありがとうございました。市長のこれからのますますのご活躍をお祈りします。

市長には、ぜひ一度私たちの活動に参加して私たちが目指している多文化共生社会への取り組みを肌で感じていただきたいとお願いしました。これからも KIFAの活動を通じて、住みよい河内長野を目指していきたいと思います。

インドネシアな１日

10月16日　市民交流センター　イベントホール

10月14日から一週間に亘り、インドネシアのグローバル・マンデリ校の皆さんが河内長野を訪れました。グローバル・マンデリ校は、インドネシアの首都ジャカルタ東部、チブブール地域にある幼稚園、小学校、中学校、高等学校から成る児童生徒数1,200人の大きな学校です。高校生５名、中学生 11名、学長と高校の校長、付き添い教員２名の一行が、日本でのひと時を楽しみながら、「インドネシアな１日」と題したイベントや学校訪問を通じて国際交流を楽しみました。

◇ウェルカムパーティー

10月14日にガルーダ航空で到着した一行をウェルカムパーティーで歓迎しました。山本会長とリファ・アリアニ学長の挨拶から始まり、ホストファミリーとの顔合わせの後、会食を楽しみました。ステージでは、日本舞踊、楳若勧光社中（うめわかかんごうしゃちゅう）・すみれ会の皆さんによる歓迎舞踊が披露され、グローバル・マンデリ校の皆さんによる返礼歌が流れる中、和やかにパーティーが進み、その後宿泊先に分かれて、旅の疲れを癒しました。

◇インドネシアな１日

駐大阪インドネシア共和国総領事

10月16日は市内の小学校の秋の運動会の日。人出はあまり期待できないものと覚悟を決めて当日を迎えました。ところが、蓋をあけてみると準備した椅子は常に満席。インドネシアの食べ物、飲み物、小物から雑貨までが、色とりどりに販売されている会場は、たくさんの人に埋め尽くされました。

インドネシア共和国のウィスヌ・エディ・プラティグニョ総領事のスピーチに続き、ステージでは次々にインドネシアのダンスや歌、竹で出来た楽器アンクルンの演奏やグローバル・マンデリ校の中高生のパフォーマンスなどが繰り広げられました。赤や金色の鮮やかなコスチュームを身にまとったダンサーの踊りに、しばし実際にインドネシアに行ってショーを楽しんでいるかのような錯覚におちいります。美しいモデルの皆さんによるバティックのファッションショーは、多くの男性観客の目を惹きつけたことは言うまでもありません。インドネシア旅行に興味を持った方がすぐに情報を得られるように、ガルーダ航空の旅行案内まで会場にあるという、至れり尽くせりのイベントでした。最後には抽選会を行い、運のいい方はインドネシアグッズなどを手に入れ、何も当たらなかった方も楽しい経験とインドネシアへの夢とともに会場を後にしたことでしょう。

◇サヨナラパーティー

中学生の一行はひと足先に18日に帰国しましたが、予定していた行事もすべて無事に終わり、20日の夕方から、高校生の皆さんや、お世話になったホストファミリーの方々が集い、サヨナラパーティーを開きました。高校生の皆さんと校長先生からは感謝の言葉をいただき、有意義な時間を過ごせたスタッフも心が暖かくなりました。一行は名残を惜しみながらホストファミリー宅で日本での最後の夜を過ごし、翌日、帰国の途につかれました。

短い間でしたが、河内長野で過ごした一週間は皆さんの一生の思い出になることでしょう。

インドネシア　学校交流と日本文化

川上小学校にて

10月19日の午前中は市立川上小学校を訪問し、2年生の子ども達の教室に招かれ運動会で披露した団体演技で迎えられました。そのあと2クラスに分かれ折り紙（だまし船と新聞紙で折る鉄砲）を習いましたが、高校生なので理解が早く、先生に代わって、わからない子ども達に教えていました。お昼は子ども達と給食をいただき、とっても楽しかったと喜んでいました。

午後からは金剛寺の奥殿という、普段はなかなか入る事が出来ない特別な場所で、ゆかたに着替え、お茶会をしました。曽和 宗陽先生から、立礼のお手前の御指導をいただきました。

20日は大阪府立長野高等学校のクラブ活動の紹介などで楽しい交流が出来、学生同士メールの約束などし、とても和やかに過ごしていました。

別途中学生メンバーは、20日に（学）清教学園中学校を訪問し、クラス体験や書道体験で交流を楽しみました。

金剛寺にて

長野高等学校にて

清教学園にて

交流活動事業部

交流活動事業部は毎月１回定例会を実施しています。

年度初めに年間の交流事業を流計画し、それを基に毎月の定例会で検討し、統括部会に提出し、実行しています。

大きなイベントを開催するときには、統括部会でお願いし、各事業部の皆さんの応援をいただき、事業を進めています。

近年はフィリピンのレトラン学院学生・早稲田大学の留学生などから多くの申し出があり、学校交流を中心に、地域の学校・企業などの訪問につなげたり、着物（振袖姿）でお茶会など文化的交流をするお手伝いもしています。

平成28年度はインドネシアのグローバル・マンデリ校生、フィリピンのレトラン学院学生を迎えました。また、デンマークの学生、早稲田大学留学生との交流も計画しています。

国際料理教室ではインドネシア料理、日本料理を実施し、韓国料理を計画中です。

皆様の交流部会イベントへの参加をお待ちしています。

レトラン学院を迎えて

日本語支援活動事業部

KIFA設立から半年後の11月、地域在住の外国人に対する「ことば」の支援としてスタートした日本語サロンも、同じく25年目を迎えました。現在は老若男女30数名の日本語ボランティアが、ベトナム、中国などアジアの国々や欧米など、約30名の学習者を対象に、週３回・３ヵ所でサロンを運営しています。学習者は主に、技能実習生、会社員とその配偶者、料理人、国際結婚の配偶者、英語講師などですが、滞在期間や日本語のレベル、また学習の目的も様々です。日本語能力試験に挑戦したい、就職したい、あるいは家族や地域の人たちと良い関係を築きたいなど、熱心に通ってくる学習者それぞれの希望に応えるべく、我々ボランティアは準備を重ねる毎日です。

サロンでは、毎週の活動に加えて次の２つの企画にも取り組んでいます。一つ目は「日本語ボランティア講座」で、活動中のボランティアの研修の場として、また、新たなボランティアの確保を目的として、毎年のように実施しています。もうひとつは、毎年３月に１年間の学習の締めくくりとして開催する「日本語サロン　オープンデイ」です。サロンを知っていただき理解を得るための貴重な場として、一般の方々にも広く参加を呼びかけています。学習者によるスピーチやパフォーマンスのあとは、小さなグループに分かれ、学習者を交えたおしゃべりを楽しんでいただきます。毎回100名前後の方々から参加申し込みがあり、学習者や私たちボランティアにとっても大切な行事となっています。

日本語ボランティア講座の様子

日本語ボランティアの面白さ、楽しさは、たくさんのことに関心を向けさせてくれることです。彼らの国の宗教、歴史、文化。日本と関わりがあった歴史と現在の関係。日本での彼らの暮らし。活動前は遠くに感じていたものが身近なものとして感じるようになりました。また日本語の再認識、日本の再発見にもつながり、学ぶことが多く、有意義な活動だと思っています。

これからも、地域に住む外国の方にとってお役に立つことができるような日本語サロンでありたいと願っています。

日本語サロン活動風景

カーメル市交流活動事業部

～Friendship Forever～

ラウンダバウト

パラディウム

両市合同
姉妹都市委員会

カーメル市交流活動事業部は、河内長野の姉妹都市カーメル市との交流を中心に活動しています。カーメルはアメリカの五大湖の南、インディアナ州にあります。2013年には、全米で最も住みやすい都市に選ばれるなど、近年特に注目の街で、市内に点在する roundabout（ラウンダバウト）は、速やかな交通の流れを確保しつつ安全さも実現することで物流に貢献し、街の発展に一役かっています。Palladium（パラディウム）とよばれるパフォーミング・アーツ・センターや、市民の健康や文化的活動を支援するモノンセンターなど、豊かな市民生活のための施設も建設され、人口増加を加速しているようです。

私たちの事業部では、「姉妹都市子ども絵画交換」として、両市の子どもたちの絵画作品を交換し、展示会を開いてアメリカと日本の子どもたちの感性や芸術性に触れ、互いの文化を理解し合う機会としています。最近では、市内の子どもたちを対象に夏休みに絵画教室を開いて絵画を製作し、質の高い作品をカーメルに届け、高い評価をいただいています。

◀ギネスブック公認の「世界一小さな子ども美術館」にて
館長ドナ・タットワイラー、KIFA 飯阪副会長、
山本会長、元館長故ドリーン・スクワィア・フィッカラ

また、カーメル市で毎年９月下旬に開かれる「カーメル市国際アートフェスティバル」に、市民の中から参加者を募って行っていただいています。カーメル市の姉妹都市委員会のみなさんが、毎回、綿密な計画と暖かいおもてなしで参加者を迎えてくださり、市民レベルの国際交流に貢献しています。

清教学園に隔年で訪れるカーメルの中・高生を中心にお招きして「カーメル市民との交流会」も開催し、河内長野にいながらカーメル市民と交流できる機会となっています。

カーメル市との姉妹都市交流は 2019 年に 25 周年を迎えます。これからも両市が姉妹都市交流を通じて互いの理解を深め、さらなる発展を成し遂げていくことを願っています。

アートフェスティバル会場のデザイン＆アート地区

語学交流活動事業部

～ネイティブの先生と楽しく外国語を学べる「語学クラブ」～

現在、英語、中国語、スペイン語、韓国語のクラスがあります。どのクラスも先生と受講者で自主運営をお願いしています。それぞれのクラスに特長があり楽しそう。毎年４月からスタートしますので、３月の市広報紙や協会ホームページをご覧の上、事務局までお申込みください。英語フリートーキングの担当スタッフさんの声を代表でご紹介します。

「英語フリートーキング」て何？

英語で地域にお住いの外国の友達と、気楽におしゃべりして、友情の輪を広げられたら楽しいなあと。毎月第２土曜日の午後、外国の方をゲストに迎えて、お国の話、日本での生活、ニュースや暇つぶしの四方山話、なんでもOK。ワイワイガヤガヤとゲストを囲み、拙い英語で勉強（?）し遊んでいます。

スタートして13年、アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリアは勿論のこと広くアジア、南米からの本当にたくさんのゲストの応援をいただいています。
英語と異文化に興味のある方、大歓迎です。
お気軽にドアをノックしてください。面白くて為になりますよ。

これまでにいろいろな方をゲストにお迎えしました

青少年育成活動事業部

グローバル化が加速し、外国人と接する機会が多くなり、河内長野では、小学校低学年から英語の授業を取り入れ、子ども達は外国人講師の指導を受け、生の英語のシャワーを浴びています。

国際交流協会では、子ども達に色々な国の外国人と実際に接する機会を増やし、将来の日本を任せられるいわば国際人材育成への一助となるよう考えています。そのため、これまでたくさんのゲストをお迎えし、異文化交流を通して多くの学びの機会を提供しています。

中でも印象に残っているのが、日本で唯一のチベット人声楽家バイマー・ヤンジンさんの歌と市内小学校の児童の音読の交流です。ヤンジンさんは、日本の豊かさと教育の高さに感激し、その後、母国に小学校の建設を進められました。

バイマー・ヤンジンさん

また中国の揚琴奏者、沈兵（シェンピン）さんのコンサートでは、まるで音楽の妖精のように奏でる沈兵さんの様子に、会場は保護者の方々の熱い吐息に包まれました。子ども達の見事な英語によるオペレッタ「エルマーの冒険」も披露され、心ふれあうジョイントコンサートになりました。

韓国伝統舞踊柳会の公演では、鮮やかな民族衣装での華麗な舞・演奏・力強い妙技が子ども達を魅了した後、ワークショップで子ども達にも演奏の機会を与えてくださいました。

最近では、ヤングアメリカンズ（日本ツアー招聘元：NPO法人じぶん未来クラブ）をお招きし、多くの感動をお届けしています。このプログラムは、当初はワン・ディ開催で実施していましたが、子ども達や保護者の方からの要望が多く寄せられ、３日間のフルプログラムになりました。ワークショップ初日では慣れない子ども達も、２日目になると団員のお姉さんやお兄さんとも意気投合し笑顔でステップするところまで成長し、本番のステージでは、本場アメリカのショーを、団員と共にエネルギッシュにステージいっぱいに繰り広げてくれました。

このワークショップを通して、みんなで取り組めば素晴らしものができあがることを子ども達は学んだと思います。

このように、今後も実際に外国人とともに過ごす活動を子ども達に提供し、大切な彼らの成長を願って青少年育成事業を進めていきます。

沈兵さん

多文化共生活動事業部

多文化共生活動事業部は、協会の活動のなかで、多文化共生のニーズを感じて20年近く前に発足しました。活動の目的は、主に地域住民が外国人や外国文化に対する理解を深め、多文化共生社会の実現に寄与することです。そのために外国人の支援をスムーズに進められるように、地域在住の外国人のネットワーク作りにも力を入れています。また、地域住民と在住外国人が交流する機会を作り、日本の文化や外国の文化を紹介することにより様々な国の文化を理解し、お互いの生活が豊かになることを目指しています。日本人と外国人の交流だけでなく、外国人同士も知り合いなれるチャンスや、悩みごとや困ったことに対する解決策を見つける機会を提供します。

お月見会の催しにさきがけて、AEDの使い方を学びました

今までに取り組んできた活動には、多言語進路ガイダンスや多文化サロン、日本文化の紹介、多文化共生や世界情勢についての講演会、「暮らしの便利帳」の多言語化やAEDの使い方講習などがあります。運営には、茶道、華道、日本舞踊、きもの着付け、三味線、日本の生活マナー等の紹介ができるスタッフも参加しており、河内長野が、外国人にとって暮らしやすい街になってほしいと願って、活動しています。これまでにこの事業部の企画に多くの外国籍の方々が参加してくださいました。韓国、中国、米国、カナダ、タイ、台湾、インドネシア、マレーシア、フィリピン、ネパール、アルゼンチン、パキスタン、ベルギー等、各国の方々です。

今後の取り組みとして、生活マナー講座のようなこれまでの活動を拡大し、外国人向けだけでなく、日本人も外国でマナー違反による不快な体験をしないための学習や、外国の観光客の行動を理解するための勉強会、様々な多文化共生の講座、住民の新しいニーズをつかんで、平和で豊かな暮らしのために必要な取り組みを行っていきたいと思います。この事業部の活動に関心のある方々に、是非スタッフとして一緒に活動していただきたいです！

広報活動事業部

広報活動事業部の役割は、国際交流協会の活動内容や活動状況をKIFA会員や一般の方々に知っていただくための活動を行うことです。私たちは3つのメディアを使って情報を発信しています。

1つ目は協会ニュースレター（KIFAリポート）です。春夏秋冬の年4回発行する季刊紙で、本号で100号となります。このリポートはKIFA会員の皆様に配布されますが、市民交流センターなどで、一般の方も入手することができます。

2つ目がホームページです。ここでは開催されるイベントのタイムリーな情報や、「にほん語サロン」や「語学クラブ」のスケジュールを見ることができます。KIFAリポートのバックナンバーのPDF版もダウンロードできます。

3つ目が、今年で5年目になるメールマガジンです。季刊紙であるKIFAリポートを補完する形で、不定期にイベント情報などを、画像付きのメールマガジンでお知らせしています。ホームページから登録依頼をいただいた方に発送しています。

これらのメディアに掲載する情報は、部員がイベントなどに参加して取材、撮影をして集めます。昨年は、インドネシアとオーストラリアの領事館を取材し、総領事とお会いして記事にするなど、普段では中々できないような経験もしました。

KIFAリポート発刊に際しては、編集会議を行って皆で知恵を絞り、脱線もしながら、ワイワイと楽しく協会ニュースレター作りに勤しんでいます。

事務局

新年明けましておめでとうございます。
今年は河内長野市国際交流協会（KIFA）設立25周年を迎える記念すべき年、事務局もボランティアスタッフの皆様と手を携えて協会のミッションを果たすべく精進し、地域の方々から賛同を得られるよう頑張る所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

河内長野は在住外国人が少なく、その数は市全体の0.5%弱に過ぎません。このように外国人の少ない街ではありますが、人数の少ない今だから出来ること・しなければならない事があると考えています。それは地域の皆さんに健全な多文化共生社会とは何かと問い、理解していただき、多様性を受け入れる物心ともにインフラを整備することです。

そのためには、「自分は国際化には関係ないと思っている方々にも目を向けていただけるように配慮した活動」、「将来を担う子ども達が多様な価値観を認めることができるような活動」、「外国の方々自身が興味を持って足を運んでくれるような活動」など様々な活動が必要です。ボランティアスタッフの手によって、外国人のためのみならず、地域の方々の生活にプラスになること、潤いや活性に繋がるよう国際交流活動を継続しているのがKIFAです。

真摯に耳を傾けると、国際化に関わることは随分多くあるものです。加えて、一見、国際とは無縁であるように見える方々や団体様と協働することの重要性を年々強く感じるようになっています。

近年、訪日外国人が急増し、昨年末には2,000万人を突破しました。これは政府が本来2020年に達成目標としていた数値で、予想を大幅に超えたため、目標数を4,000万人に修正したほどです。日本を訪れる観光客のみならず地域に住む外国人にもますます日本人気が高まる中、河内長野を訪れる外国人が減るとは考えにくく、反対に急激に増加することを予測すべきでしょう。ですから、異文化を受け入れ、上手く付き合える体制づくりをしなければなりません。産官民が一致団結して、脈々と受け継がれてきた河内長野文化を共有しつつ、異文化を楽しむことのできる土壌づくりをすべき時は今と強く思います。安全・安心で自然豊かな美しい河内長野。そこに活力を加えるためにも、多様性を認め、違いを認識して調和が図れるように人々の心を耕すことが必須です。KIFAの活動は、ボランティアスタッフの熱意や日々の努力がなす、民ならではのきめ細やかな活動であり、設立25周年を機に、先輩諸氏が積み上げてこられた国際交流活動を顧みて、ますます広げていくべきものと思います。

2017! 今年も来ます！ヤングアメリカンズ！

April 28, 29, 30

ヤングアメリカンズは、1962 年にアメリカで設立された「音楽公演」と「教育活動」を行うアメリカの非営利活動団体。団員はアメリカ国籍を中心に世界中から集まった 17 歳〜25 歳の若者で構成されています。

これまでアメリカのメージャー音楽番組や歴代６人の大統領に招かれ公演をするなど活動は多岐に渡り、1992 年からは「ミュージック・アウトリーチ」と言われる表現教育活動が中心となり、これまで 28 カ国、75 万人以上の子ども達が参加してきました。卒業生の多くはブロードウェイや様々なエンターテイメントの世界に進出しています。

このプログラムは、ダンスや歌で構成された１時間のエンターテイメントショーを河内長市の参加者 200 名と３日間（14 時間のワークショップ）で創り上げる表現教育プログラムです。
日本では 2006 年より活動が始まり、現在では関東、関西、東海、九州、東北で開催され 11 万人を超す小学生から高校生が参加しました。

「普段は引っ込み思案の子供が、団員の熱意と励ましでどんどん変わっていく姿に感動した」「言葉は通じなくても心が通っている姿に感動した」など保護者の期待や想像を超えた体験となったという声が寄せられております。

河内長野では、河内長野市国際交流協会（KIFA）主催にて 2014 年より１day プログラムを開催。2016 年より３日間のフルプログラムを共催するようになりました。
今年は４月 28、29、30 日にラブリーホールにて開催します。
詳しくは以下へお問い合わせください。

お問合せ先：ヤングアメリカンズ事務局
WEB サイト：http://jibunmirai.com
メールアドレス：ya@jibunmirai.com
Tel: 03-6808-7399 (月〜金 10:00-18:00)
お電話は回線が混雑し、繋がりにくくなる場合がありますので、
メールでのお問い合わせをお勧めいたします。
〒105-0003　東京都港区西新橋 3-25-33 NP 御成門ビル 4F

●日本語サロン スケジュール

月＼曜日		日曜 Sun.	火曜 Tue.	木曜 Thu.
1月	Jan	15･22･29	17･24･31	12･19･26
2月	Feb	5･12･19･26	7･14･21･28	2･9･16･23
3月	Mar	5･19･26	7･14･21･28	2･9･16･23

＜開講場所と時間＞
日曜日 Sundays　14:00〜16:00
　　千代田公民館　2階
火曜日 Tuesdays　10:00〜11:45
　　市民交流センター（KICCS）3階
木曜日 Thursdays　18:00〜20:00
　　ノバティ南館3階　ノバティホール

●語学クラブ スケジュール

コース		英語 フリー トーキング	英語 （中級）	英語 （初級）	スペイン語 （初級）
時間		14:00~15:30	19:00~20:30	19:00~20:30	19:00~20:30
開講日	1月	14	10･24	17･31	6･20
	2月	11	14･28	7･21	3･17
	3月	11	14･28	7･21	3･17

インフォメーション Information

■日本語サロン　火曜日、木曜日スタッフ募集！

地域在住の外国人の方にボランティアで日本語学習のサポートをしてくださる方を募集します。

応募資格：
＊河内長野市国際交流協会主催の「日本語ボランティア講座」または他機関で、日本語教育に関する講座を受講した経験のある成人の方。
火曜日 10:00 ～ 11:45 のクラス
（場所：市民交流センター 3F）、 又は
木曜日 18:00 ～ 20:00 のクラス
（場所：ノバティ 南館 3F ノバティホール）
に毎週参加できる方。

募集人員：若干名。応募者多数の場合は抽選。但し、選外となった方は待機スタッフとして登録され（1年間有効）欠員に応じて参加可。

応募締め切り日：1月20日(金)

応募方法：電話、又はメールで事務局へ。住所、氏名、電話番号、参加希望曜日と受講終了講座名または機関名をお伝えください。

＊サロンの見学もできます。
（事前に事務局にお問い合わせください）
日本語学習サポートに興味と熱意のある方、大歓迎です。

■日本語で国際交流しませんか？

～第12回「日本語サロン オープンデイ」のご案内～

日本語サロンの学習者がスピーチに挑戦します。その後、学習者と日本語での交流のひとときを楽しんで頂きます。

日　時：3月12日(日)　14:00 ～ 16:00
場　所：市民交流センター4F　イベントホール
内　容：第一部　学習者によるスピーチ
第二部　学習者と参加者の交流タイム
参加費：無料
定　員：先着100名
申込み：電話又はメールで国際交流協会事務局まで
（受付開始 2月7日）

■国際料理教室　～韓国編～

本格キムチを作る予定です。

日　時：1月28日（土）10:00 ～ 13:00
場　所：市民交流センター　4F　食工房
参加費：会員　1,500円　一般　2,000円
定　員：先着30名
申込み：電話又はメールで国際交流協会事務局まで
（受付開始 1月5日）

■デンマーク高校生のホストファミリー募集

デンマークから高校生 21人が来日し、3月7日（火）～10日（金）朝まで河内長野市に滞在します。
ホストファミリーとして、滞在中のお世話をしていただける方を募集します。
受付：1月5日~12日（希望多い場合は抽選）

■2016年度 世界情勢・ここに注目！

～イスラームの世界では今何が起こっているのか～

講 師：
堀川　徹 氏

京都外国語大学教授、国際言語平和研究所長、日本イスラーム協会理事。
1983年～84年日本学術振興会地域派遣研究員として1年余りトルコで生活。毎年ウズベキスタンで現地調査。専攻は西南アジア史。主な著書に『世界に広がるイスラーム』『中央ユーラシア史』『イスラームの神秘主義と聖者信仰』など。

多文化共生社会を築き上げるためには、お互いの文化を理解し、尊重することから始まる。現在中東で紛争が絶えないのはなぜ？同じ国民動詞で対立する理由は？専門家の話を聞くことにより理解を深めて、「イスラームの人たちはみんなテロリストだ！」というような偏見や差別をなくしていく。

日　時：1月28日（日）、2月5日（日）14:00 ～ 16:00
場　所：市民交流センター 3F　大会議室
内　容：第一回　イラクのモスルをめぐる IS 掃討作戦
第二回　シリア情勢とイスラーム諸勢力
参加費：KIFA 会員　無料、　一般　500円（各回）
定　員：先着50名
申込み：電話又はメールで国際交流協会事務局まで
（受付開始 1月5日）

事務局は
年末は12月28日まで
年始は1月4日から

■問い合わせ・申込み
河内長野市国際交流協会（KIFA）
事務局
〒586-0025 河内長野市昭栄町7-1
市民交流センター（キックス）3階
TEL: (0721)54-0002
FAX: (0721)54-0004
Eメール: office@kifa-web.jp

コース		中国語（初級）	中国語（入門）	韓国語（中級）	韓国語（初級）	韓国語（入門）
時間		19:00~20:30	19:00~20:30	13:00~14:30	10:40~12:10	15:00~16:30
開講日	1月	6・20	13・27	11・25	11・25	11・25
	2月	3・17	10・24	8・22	8・22	8・22
	3月	3・17	10・24	8・22	8・22	8・22

日本語ボランティア　ブラッシュアップ講座

今年度も、日本語ボランティア活動に関心のある方を対象にした「第 16 回 日本語ボランティア・ブラッシュアップ講座」が6回に亘って開催されています。

第1回　10月22日(土)
「多文化共生社会の地域づくりと日本語教室の役割」
講師：東海日本語ネットワーク副代表　米勢 治子 氏
第2回　11月5日(土)
「外国語として日本語を見てみよう
～さまざまな面から見た日本語の特徴～」
第3回　11月20日(日)
「初級レベルの学習者との活動　～初級テキストを使った活動のやり方～」
第2、3回講師：
(財)海外産業人材育成協会 関西研修センター 講師　矢谷 久美子 氏
第4回　12月3日(土)
「おしゃべりで学習者の話す力を伸ばそう　～「対話型活動」のやり方～」
第5回　2017年1月21日(土)
「生活者としての外国人と文法　～文法を‘教えない’活動を考える～」
第6回　2017年2月18日(土)
「学習者が楽しいと思える「読む活動」「書く活動」の進め方」
第4～6回講師：
(財)海外産業人材育成協会 関西研修センター 講師　澤田 幸子 氏

第１回目は、第2回以降の実践的なお話に先立って、米勢 治子氏による基調講演から始まりました。講演では、日本語教室と多文化共生との関わり方、日本語を学ぼうとする外国人と教えようとする日本語ボランティアとの関係についてお話をしていただきました。

最近は、企業の技能研修の実習生として来日され、日本語教室に来られる外国の方もいます。この方たちは、比較的に経済的、時間的に恵まれており、一定の日本語教育が研修に組み込まれていて、日本語を学ぶことの優先順位が高いと言えます。一方で、「日本で生活しないといけない外国人」の方々は、生活費を得るための就労、家事や子育て、介護などに追われることが多く、どうしても日本語を学ぶことの優先順位が低くなってしまっています。日本語教室が対象とするメインの学習者はやはり、これらの「生活者」であり、日本語教室は人間関係づくり、地域づくりの場でもあると、講演を通じて再認識することが出来ました。グループに分かれてのディスカッションでは、「もし、あなたが河内長野市に住む外国人だったら…」ということで意見を出し合いました。人間関係作りや、生活に必要な情報の入手、それを満たすのに必要な日本語など、社会参加するための日本語支援の必要性について外国人の視点から考えてみました。

日本語ボランティアは、日本語を教えるだけの一方通行ではなく、外国人とのコミュニケーションの方法を学んだり、彼らが抱えている問題から、地域を見直したりすることができます。そのためには、「対話中心の活動」が必要となってきます。既に日本語習得支援に携わっておられる方にとっては、今までの活動を振り返るいい機会に、これから活動を検討されている方にとっては、想像していた日本語ボランティアの活動イメージと違って、目からウロコ的な内容も沢山あったように思います。

第２回目は、矢谷 久美子氏による講座「外国語として日本語をみてみよう」でした。これから勉強しようとする外国人にとって、日本語がいかに難しいものなのか、再認識させられました。まず文字の種類が４種類、ローマ字、漢字、ひらがな、カタカナ。アルファベットは 26 文字ですから、４種類の文字を覚えるとなると、何倍もの労力が必要です。同じ漢字をつかう中国の人にとってさえ、日本語の中では同じ漢字でも色々な読み方をする場合があり、これもやっかいです。学校では約2,000の漢字を習い、日本人は 3,000 以上の漢字を日常で使っているそうです。また語彙が多いのも日本語の特徴だそうです。男言葉や女言葉があり、類義語が多くまた状況によって言葉を使い分けるため語種も多く 10,000 語以上覚えないといけないそうです。あと、普通に使っているいわゆる「てにをは」と呼ばれる助詞。日本人は何げなく使い分けていますが、これをいちから勉強するのは、いかにも難しそう。

矢谷氏のユーモアを交えた優しい語り口に惹き込まれながら、日本語を学んでいる外国人の方には、これらの難しさを認めながら、彼らを励まし、優しく教えてあげたいという気持ちにさせられました。

編集後記

○あれは 25 年前のこと、「国際交流協会」スタッフ募集がありました。「何ができますか？」の項目に「英語も中国語もダメ、力仕事ならＯＫ！」と申し込みました。あれからずっと広報部に住み着いて今も「力仕事」に精出しています！　（安藤）

○今年は KIFA 設立 25 周年にあたります。結婚記念日でいうと銀婚式です。「シルバーウィーク」なんて、ちょっと安直でムッとするようなネーミングのシルバーもありますが、このシルバーはとっても嬉しいシルバーですね。　（石本）

○いつもよりページ数の多い構成で苦労しました。しかし、各事業部の活動を改めて確認すると、その多様性や奥深さ、また、実際にそれらのほとんどを定年後のボランティアが行っていることに驚きます。シルバーパワー、捨てたものじゃない！　（後藤）

無料
メールマガジン
配信中！

KIFAの楽しいイベントや情報を、いち早くお知らせします。
お申し込みは、事務局または、KIFAホームページから。
http://www.kifa-web.jp/